

8. 算 額

中国から伝わり日本で確立した数学を和算といい、その研究者たちを和算家と呼んだ。江戸中期頃『新編塵却記』という算書に解答のない問題が提出され、これに答えることが行われ、和算家たちは難問が解けた記念に神社に額を掲げる習慣が始まった。



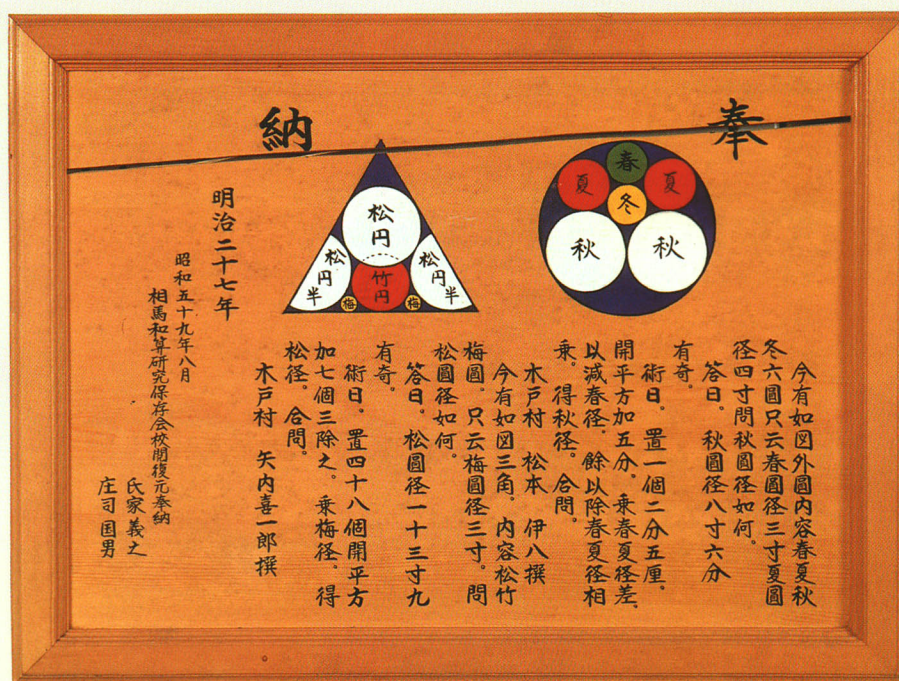
45×60

28. 算額 明治27年 (1894年)

北田 北田神社 (目録 17)

奉納者は和算家関根熊吉である。安政元年 (1854) 富岡小良浜に生まれ、幼少より算数を好み22歳で岐阜県大垣馬場留吉に入門し和算を学ぶ。32歳のとき船引の最上流和算家佐久間鑽に入門。39歳で両目を失明するが勉学を続け、40歳のとき最上流初伝を許される。この時奉納した。

この算額は「相馬和算研究保存会 (昭和45年創立)」の皆さんが昭和59年に復元して奉納したもの。



45×60

29. 算額 明治27年 (1894)

北田 北田神社 (目録 18)

松本伊八と矢内喜一郎の二人は関根熊吉の門下生と思われ、師の最上流初伝の許しを得たとき記念に奉納したと思われる。松本伊八 (前原浜ノ城) は明治期に木戸村助役・収入役を勤めた人。